

令和5年度 府中市立四谷小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①説明文において、文章全体の構成を読み取ること。 ②言葉の意味や使い方を正しく理解すること。 ③文章の要点を読み取り、理解したことを自分の言葉でまとめること。	①説明文において根拠をもって段落ごとの役割や段落相互の関係を見出せるよう、用語の意味を指導し、理解させる。 ②辞書を活用しながら、熟語や慣用句などの意味を調べる活動を意図的に組み込む。 ③文章の要点につながる語や文の見付け方やまとめ方をスモールステップ化して指導する。		
算数	①小数の四則計算の習熟を図ること。 ②伴って変わる量の二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し。表や式を用いて変化や特徴をとらえること。 ③問題場面を捉え、数量関係を読み取り、式、言葉、図に表して考察すること。	①小数の仕組みの理解を深めるとともに、計算の考えをおさえ、計算のしかたを説明する活動を多く取り入れる。 ②伴って変わる2量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考える学習活動を意図的に行う。 ③問題場面を、図、表、式、ことばで表しながら考える習慣を付け、それらを関連付けながら、問題の数量関係を理解したうえで、演算決定をして立式したりする力を育てる。		
理科	①問題解決の見通しをもちながら観察・実験を行うこと。 ②観察や実験の結果を、問題や予想などに照らし合わせて考察すること。 ③観察・実験で使用する器具の使い方を理解し、正しく扱うこと。	①単元を貫く学習問題づくりと、何を解決するための活動なのかを毎回意識させる。 ②問題、予想に立ち返りながら、考察の視点を確認する。 ③新出の器具や使い方はもちろん、既習の器具や使い方についても毎回確認する。		
社会	①課題に応じて資料を読み取り、課題解決に活かすこと。 ②調べ学習において、資料の中から必要な箇所を取り出したり、選んだりすること。	①課題に対して、ICT 機器等を活用し資料から適切に情報を読み取れるようにする。 ②図や写真、グラフなどの資料から分かることを児童同士交流させる。自分の考えの根拠として、適切な資料を見付けることができるようにする。		
音楽	①曲想に合う歌い方や演奏の仕方を工夫すること。 ②互いの演奏を聞き合ったり、自分たちの演奏を聞いたりしながら、自分達の演奏を分析すること。 ③演奏すること、表現することの楽しさを知ること。	①楽譜に書かれている情報を読みとる学習や、歌詞と音楽との関係性を考える学習を多く取り入れる。曲想を表現するための楽器の奏法や歌唱法を学ばせる。 ②ICT 機器を活用し、曲想に合わせてどのように演奏したいか、どんな工夫ができるかといった意見交流をしたり、録画した自分たちの演奏を見たり聞いたりし、自分たちの演奏を客観的に聞き、分析できるようにしていく。 ③演奏する楽しみ、表現する楽しみを味わえるような教材や活動を工夫し、子供たちが笑顔で音楽を楽しめる授業を行う。		
図画工作	①材料や用具の基本的な扱いを理解し、応用したり発展させたりして活動すること。 ②どの題材においても自ら目標や課題を設定し、主体的に取り組むこと。	①材料や用具の基本的な扱いを理解するとともに、発展的な活用方法を提示したり、鑑賞やグループ活動を通して工夫や応用方法を考えさせたりする。 ②児童の興味・関心、生活などと題材を関連付け、自ら目標や課題を設定する態度や力を育てる。		
家庭	①裁縫において、基本的な技能に差があること。 ②調理実習などで、他者との協働する意識に差があること。 ③自分や家庭生活を見つめ、家族の一員としてできることを増やすこと。	①ICT 機器を活用し、ポイントとなる部分を繰り返し例示する。また活動の内容や手順を明確にする。 ②自主的に役割分担を決定する機会を増やすとともに、学習活動について振り返る時間を設け、自己有用感を高めるようにする。 ③自分や家庭生活を振り返り、貢献できる機会を見出す学習活動を設けるようにする。		
体育	①運動の仕方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 ②自分に合った運動の課題やめあてをもち、運動方法を正しく選択できること。 ③毎時間の運動量に個人差があること。	①ICT 機器を有効に活用し、自分の体の動きを見ることで、より正確な動きを身に付けられるようにする。 ②段階的に技能を習得できる場を設け、児童が自分に合った運動を選択できるようにする。		

令和5年度 府中市立四谷小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

		③コーディネーショントレーニングやサーキットメニューなどの運動を継続的に行う。		
外国語	①語彙・発話量の向上し、基本的な英語表現を理解すること。 ②基本的な英語表現を理解し、児童の語彙の量が向上すること。	①発話量を増やすためには、語彙の獲得が重要であり、語彙の獲得のためには、繰り返しの練習が必要であるため、デジタル教材用いて、繰り返し練習できるような教材を準備する。 ②語彙の練習、復習を同じ流れで毎時間行い定着を図る。授業の初めを復習時間にあて、既習事項と本単元に関する英語表現を確認する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。